

委員・有識者からの主な意見（分野別会合（農林水産業））

□ 6次産業化について

- ・少量・規格外商品に付加価値を付けることが重要であり、小さな取組に対する支援策が重要。
- ・起業活動を一步進めるためには、機器の購入への補助や低利融資などの充実が重要であり、女性起業の取組はさらに活発になる。
- ・中山間地域は一見不利な条件だが、多様な資源を有する強みともなる。少量多品目の現状では国の事業活用が困難であり、県独自の支援策が必要。
- ・6次産業化の推進にあたって、ファンドは有効。償還期間が7年であるが農林水産業の特性を考慮すれば、もう少し長期の償還期間が望ましい。

□ 農商工連携について

- ・漁獲の多い魚でも加工できる企業がない場合がある。漁業と水産加工業は密接につながっており、漁業者だけでなく、加工業者もあわせて支援するバランスが重要。
- ・日本酒のブランド化において、自県産酒米の使用は強みとなる。県産酒米の増産をお願いしたい。

□ 6次産業化と農商工連携の一体的な推進について

- ・第1次産業者が、6次産業化(加工・販売まで)を進めるのはハードルが高い。加工業者とも連携し、6次産業化・農商工連携を推進すべき。
- ・山口6次産業化サポートセンターや県商工会連合会等の関係機関が一体となって支援することが重要。

□ 販路開拓について

- ・大消費地や海外に向けたアピールが必要。中小企業が多い山口県では、海外販路の開拓をいかに進めるかが課題。
- ・生産と販売の両立は困難。営業の即戦力となる人材の確保・育成が重要。
- ・マーケティングを進めていくにあたり、生産者への支援だけでなく、販売者に支援をすることも重要。
- ・農商工連携を進めるポイントは、首都圏など県外への販路の確保であり、地域商品を首都圏に送り込むための地域商社的な組織が必要。

□ その他

- 商品づくりでは、地域ごとに観光協会等とも連携した取組を進めて行くなど観光面からも考える必要。
- やまぐちブランド等の山口県の取組にプラスし、瀬戸内ブランドのように県外とも連携して進めて行くことも重要。
- 地産地消の取組は、地域の資金を地域で循環させることができる有意義な取組。継続して取り組むためのソフト面での支援が重要。
- 木材価格が低迷する中で、森林バイオマスエネルギーとして安定して活用していくことが重要。